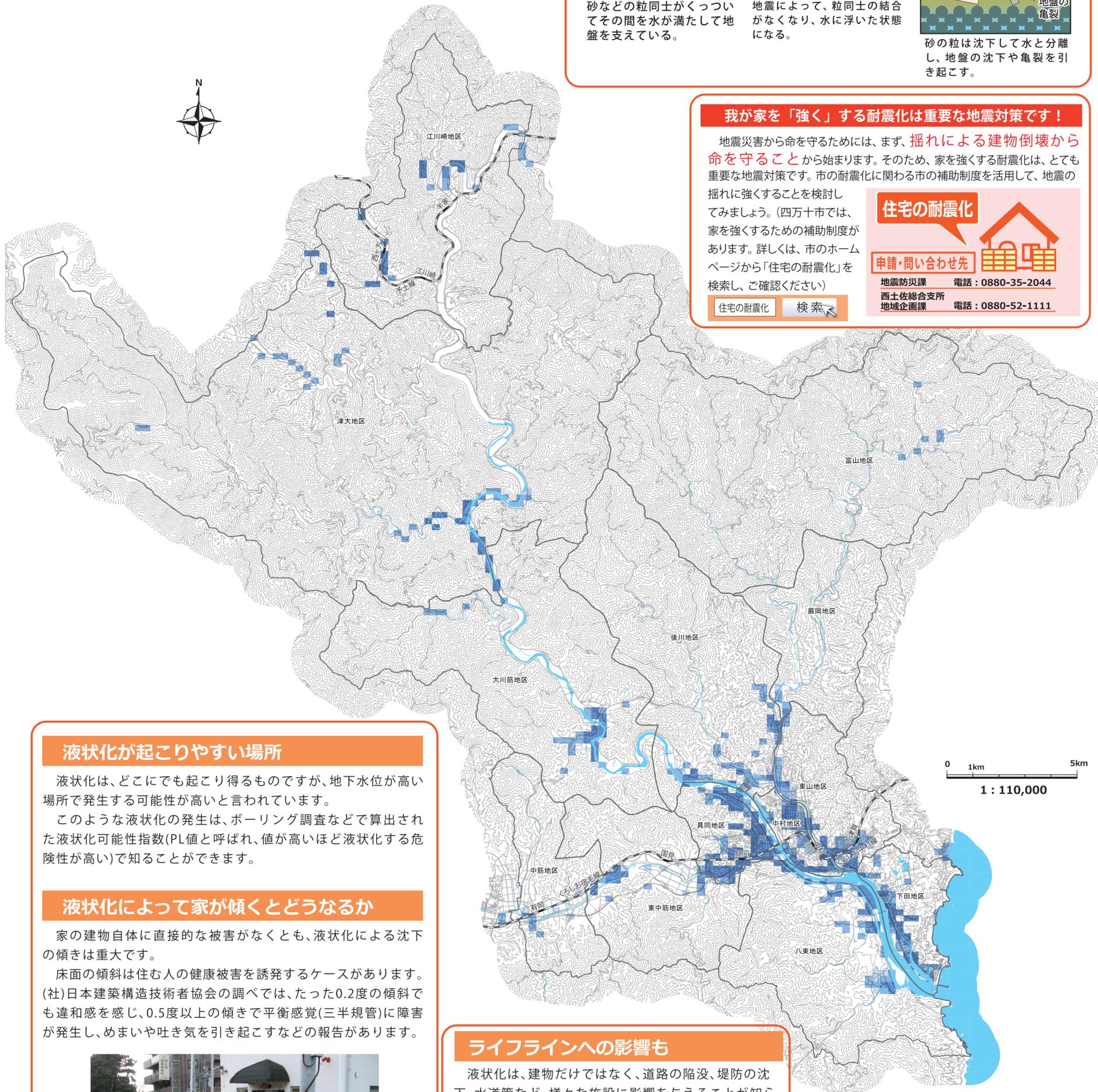


### 液状化可能性予測図

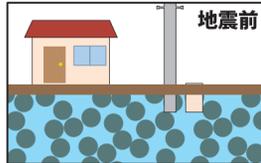
**この液状化可能性予測図は、最大クラスの地震の揺れによる液状化の可能性を推計したものです。(その土地が「液状化する・しない」を断定するものではありません。)**

※この液状化可能性予測図は、高知県が調査・公表した南海トラフによる最大クラスの地震が発生した場合の液状化の可能性を予測したものです。

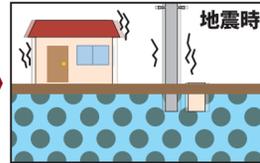


### 液状化発生のメカニズム

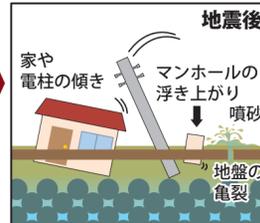
液状化とは、地震の揺れによって地盤が一時的に液体のようになってしまう現象です。この現象により、地上の建物が倒れる、道路が陥没する、マンホールが浮き上がるなどの被害が発生します。



砂などの粒同士がくっついてその間を水が満たして地盤を支えている。



地震によって、粒同士の結合がなくなり、水に浮いた状態になる。



砂の粒は沈下して水と分離し、地盤の沈下や亀裂を引き起こす。

### 我が家を「強く」する耐震化は重要な地震対策です！

地震災害から命を守るためには、まず、揺れによる建物倒壊から命を守ることから始まります。そのため、家を強くする耐震化は、とても重要な地震対策です。市の耐震化に関わる市の補助制度を活用して、地震の揺れに強くすることを検討してみましょう。(四万十市では、家を強くするための補助制度があります。詳しくは、市のホームページから「住宅の耐震化」を検索し、ご確認ください)

#### 住宅の耐震化

申請・問い合わせ先

地震防災課 電話：0880-35-2044  
 西土佐総合支所 地域企画課 電話：0880-52-1111

住宅の耐震化 検索

### 液状化が起りやすい場所

液状化は、どこにでも起こり得るものですが、地下水位が高い場所で発生する可能性が高いと言われています。

このような液状化の発生は、ボーリング調査などで算出された液状化可能性指数(PL値と呼ばれ、値が高いほど液状化する危険性が高い)で知ることができます。

### 液状化によって家が傾くとどうなるか

家の建物自体に直接的な被害がなくとも、液状化による沈下の傾きは重大です。

床面の傾斜は住む人の健康被害を誘発するケースがあります。(社)日本建築構造技術者協会の調べでは、たった0.2度の傾斜でも違和感を感じ、0.5度以上の傾きで平衡感覚(三半規管)に障害が発生し、めまいや吐き気を引き起こすなどの報告があります。



写真提供：財団法人消防科学総合センター

### ライフラインへの影響も

液状化は、建物だけではなく、道路の陥没、堤防の沈下、水道管など、様々な施設に影響を与えることが知られています。特に水道管は地中にあるため、大きな被害が生じ、その影響によって長期間断水することもあります。



写真提供：財団法人消防科学総合センター



写真提供：財団法人消防科学総合センター

### 凡例

#### 液状化危険度

- 液状化の可能性が大
- 液状化の可能性が中
- 液状化の可能性が小